

新規事業採択時評価結果（平成23年度新規事業化箇所）

担当課： 道路局 国道・防災課
 担当課長名： 三浦 真紀

事業の概要

事業名	地域高規格道路 金谷御前崎連絡道路 一般国道473号 金谷相良道路Ⅱ	事業区分	一般国道	事業主体	静岡県
起終点	起点：静岡県島田市菊川 終点：静岡県菊川市倉沢	延長	3.3 km		
事業概要	金谷御前崎連絡道路は、新東名高速道路・国道1号・東名高速道路・国道150号といった東西幹線軸を南北に連結するとともに、富士山静岡空港、重要港湾御前崎港などの拠点施設へのアクセスする地域高規格道路である。 金谷相良道路Ⅱは、富士山静岡空港と国道1号を結ぶ道路で、金谷御前崎連絡道路の一部を構成し、陸・海・空の総合交通ネットワークの強化を図る道路である。				
事業の目的、必要性	金谷相良道路Ⅱは、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 現道部線形不良箇所の回避による幹線道路機能の確保 ・ 総合交通ネットワークの強化による渋滞緩和 ・ 陸・海・空の連携強化による観光・産業の促進等を目的とする。 				
全体事業費	120億円	計画交通量	12,700台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見
 金谷相良道路Ⅱは、御前崎奥大井地域の発展に欠かすことのできない道路であり、事業主体である静岡県が「御前崎奥大井連絡道路整備促進期成同盟会」（島田市、牧之原市、川根本町、菊川市、御前崎市、吉田町・平成22年8月）より、整備促進に関する要望を受けている。

学識経験者等の第三者委員会の意見
 —

事業採択の前提条件
 便益が費用を上回っている。
 地元の団体から早期整備の要望を受けており、円滑な事業執行の環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	2.6	総費用： 88億円 （事業費： 87億円 維持管理費： 1.0億円）	総便益： 227億円 （走行時間短縮便益： 212億円 走行経費減少便益： 15億円 交通事故減少便益： -0.42億円）	基準年 平成22年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C= 2.3 (交通量 -10%)	B/C= 2.8 (交通量 +10%)	
		事業費変動	B/C= 2.8 (事業費 -10%)	B/C= 2.3 (事業費 +10%)	
	事業期間変動	B/C= 2.7 (事業期間 -20%)	B/C= 2.4 (事業期間 +20%)		
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	○	当該道路の整備により、交通ネットワークが強化され渋滞の緩和が見込まれる。 【渋滞損失時間】 国道473号（現道）島田市金谷～菊川市倉沢 約6.8万人時/年km 渋滞損失削減率 約7割減	
		事故対策	○	当該道路の整備により、現道交通量が約4割減少し、死傷事故率の削減が見込まれる。 【死傷事故率】 現道：70.8件/億台年 県平均：138件/億台年	
		歩行空間	—		
	社会全体への影響	住民生活	○	・第3種空港（富士山静岡空港）アクセスの定時性 ・第2次救急医療機関（島田市民病院）へのアクセス向上	
		地域経済	○	・特定重要港湾（御前崎港）の利便性向上 ・新東名高速道路（金谷IC）、東名高速道路（相良・牧ノ原IC）へのアクセス向上	
		災害	○	第1次緊急輸送路の代替路を形成	
環境		○	CO2排出量の削減		
	地域社会	○	観光（海洋レジャー（海水浴客数83万人/年））、産業（御前崎港（取扱量5万TEU）、自動車関連工場等）の促進		
事業実施環境	○	地元より本区間整備に関する要望書が提出されており、事業実施環境が整っている。			

対応方針

事業主体である静岡県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が2.6と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
 また、交通混雑の緩和、地域経済への貢献等、事業の必要性・社会全体の効果は高いと判断される。
 以上より、本事業を平成23年度新規事業箇所として採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。